JPSCS
Japan Society of Clinical Safety

News Letter

2022/9

日本医療安全学会事務局
〒431-3192　静岡県浜松市東区半田山 1 丁目 20－1 浜松医科大学総合人間科学基礎研究棟 306 号室
http://www.jpscs.org/　Email: office@jpscs.org　TEL:053-433-3812　FAX:053-435-2236

目次

01　第 8 回日本医療安全学会学術総会　総会長より
04　委員会報告　～財務委員会～
05　部会活動と第 8 回学術集会開催報告～若手・学生部会～
　　「学生と若手医師から見た医療安全」
07　編集後記

第 8 回日本医療安全学会学術総会を開催して

第 8 回日本医療安全学会学術総会
共同総会長　大磯　義一郎

まずは、新型コロナウイルス感染拡大により現地開催が危ぶまれる中、幸いにも現地開催することができ、かつ、多くの会員の皆様に浜松の地にお越しいただけたことを大変嬉しく思っています。

また、お忙しい中、1 年弱の準備期間ご協力いただいた共同総会長の辰元先生、井手口先生、副総会長の先生方、並びに事務局スタッフに心よりお礼申し上げます。

本大会は、「Keep health workers safe to keep patients safe」をテーマとし、様々な領域の先生をお呼びして、スタンダードな医療安全の議論とは少し異なった目新しいテーマ、演者の招聘講演、シンポジウムをいくつか設けました。

皆様にどのように受け止められるか若干不安はありましたが、アンケート結果をみると、好意的に受け止ていただけているようでほっとしています。

一方、昼食や会場の割り振り等、反省点もあり、こちらにつきましては、今後に活かすべく、第 9 回の総会長に申し送りいたしました。

ともあれ、無事開催することができ、胸をなでおろしているというのが正直なところです。第 9 回学術総会は 3 月 11，12 日東京理科大学葛飾キャンパスにて開催されます。間が短くなりますが、皆様の活発な議論を期待しています。

第 8 回日本医療安全学会学術総会を振り返って

第 8 回日本医療安全学会学術総会
共同総会長　井手口　直子

第 8 回日本医療安全学会学術総会において共同総会長を務めさせて頂きました。

2020 年初頭からの新型コロナウイルス感染拡大の影響で、長く現地での学会の開催が難しかったのですが、今回はそれが叶い、浜松に 612 名の参加をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

今回の開催にあたり、理事、実行委員の皆様、大磯理事長の尽力にて浜松市の協力の展示や、ゆるキャラの参加など、彩りがある楽しさの演出もありました。浜松医科大の学生さんが活きいきと受付や運営をされていたこともとても好印象でした。一般演題の会場は毎回人が溢れ、医療安全に関する研究の活発が年々増していることを実感できた大会でもありました。シンポジウムも豊かなテーマで魅力的な演者が揃い、本当に充実した 2 日間になったと存じます。改めて会員、関係者の皆さまに心から御礼を申し上げます。

今後の日本医療安全学会の更なる発展を祈願し、挨拶とさせていただきます。

第 8 回日本医療安全学会学術総会を振り返って

第 8 回日本医療安全学会学術総会
共同総会長　辰元　宗人

2022 年 6 月 11 日～12 日にわたり、第 8 回日本医療安全学会学術総会を共同総会長として開催させていただきました。幸いにも新型コロナウイルス感染症の第 6 波と第 7 波の狭間のタイミングにより現地開催（浜松）が可能となり、612 名の方々に参加していただき、盛会裏に終えることができました。無事終了できたことを理事、評議員の方々をはじめ、会員、関係者の皆さまに心から御礼を申し上げます。特に、副総会長を担当いただいた当院医療安全推進センターの鈴木佳世子師長には様々なサポートをしていただき感謝しております。

3 年ぶりの現地開催となった本学会場は活気を帯びていて、招聘講演、シンポジウムに限らず、一般口演でも立ち見が出るほど盛況で活発な議論がなされていました。また、「3DVR 映像を用いたインシデントを自ら考える能動的研修」を発表した当院医療安全推進センターの河野由江師長が優秀演題賞を受賞しました。今後も教育の質を高める取り組みをチームで進めていきたいと考えております。

今後の日本医療安全学会の更なる発展を祈願し、最後の挨拶とさせていただきます。

委員会活動報告　～財務委員会～

日本医療安全学会
財務委員会委員長　井上　清成

日本医療安全学会財務委員会では、例年通りに財務諸表や予算をチェックしていますが、それ以外に、学会事務職員の処遇、給与規定、退職金規定なども実情に合うように改定してきています。さらには、学術総会の運営費用、委託業者選定、ホームページ補修作業費用のチェックなどのいわば通常の経費に関するもののほか、各部会の研修費用についても企画が立てられる都度、チェックしつつ承認をしているところです。近くは、ピアサポート部会の共催研修について承認されましたが、今後も、各委員会・部会において活発に企画・活動をし、積極的に財務委員会に承認案件として回して来てもらいたいところです。引き続き、是非ともよろしくお願いいたします。

部会活動報告と第 8 回学術集会開催報告～若手学生部会～「学生と若手医師から見た医療安全」

日本医療安全学会
若手学生部会部会長　渡邊　清高

このたびはニュースレターにて若手・学生部会の活動と、この 6 月に開催された部会企画シンポジウム「学生と若手医師から見た医療安全」についてご報告いたします。当部会は医療安全に関わる学術研究の交流を促進することを目的とする本学会の趣旨に基づき、若手・学生による医療安全に関する研究および交流を図り、これにより優れた医療人の育成を目指しています。具体的な活動としては、1）学術総会において若手・学生を対象とした企画の開催、2）若手・学生を対象とした医療安全に関する情報発信が挙げられます。大磯義一郎理事長のもと、新たに創設した部会として将来の医療を担う若手・学生人材とどのように医療安全と質向上を実現していくか、議論しております。第 8 回の学術集会においては、若手人材からみた医療安全の課題と可能性について議論しました。

第 8 回学術集会若手・学生部会企画「学生と若手医師から見た医療安全」
企画趣旨：医療安全を議論する際には、医療を俯瞰的に把握できる管理者や責任者の視点で語られることが多く、診療の最前線で診療を実践する若手からみると、誰かが定めたルールや決めごとであり、その背景や意味合い、安全確保（患者安全・医療者安全）へのプロセスが見えにくいことも少なくありません。こうしたことから、若手が今後、医療安全にどのように関わっていくべきか、普段感じている課題や問題点ともとに、現状と解決策の方向性について議論しました。演題の詳細は学術集会抄録を参照ください。

1. 菊山智博（帝京大学医学部附属溝口病院消化器内科）シニアレジデントから見たチーム医療の医療安全
チーム医療を実現するには、患者診療に携わる多くの職種が、専門的な様々な意見を共有し、協調して治療を行うことができる環境が求められます。帝京大学医学部附属溝口病院の菊山先生からは、「心理的安全性（Psychological Safety）」について、他人から発言することを恥じたり、拒絶したり、罰を与えられるようなことがないという確信を持っている心理的状態であり、チーム内でリスクを取るのに安全な場所であるという信念がメンバー内で共有されている状態の重要性について強調されました。医療従事者としての内発的動機付けを維持しながら、十分か知識・経験を得て患者から信頼される医療を実践できる医師の育成プロセスにおいては、心理的安全性を獲得することが医療の質と安全の向上につながると発表しました。

2. 新戸瑞穂（帝京大学医学部附属病院小児科）　シニアレジデントから見た病棟の医療安全
帝京大学医学部附属病院の新戸先生からは、これまでの医師の卒前卒後教育・研修制度、そして最近の医師の働き方改革に伴う医療安全の潜在的リスクについて報告がなされました。2004 年の新臨床研修制度を契機に、研修の必須化、スーパーローテート、待遇改善、勤務時間の制限などの制度が導入されました。一方で、病棟での診療業務について上級医へのしわ寄せ、業務のひっ迫、研修医にとっての研修機会の減少や能力の低下の懸念について課題があります。ハイリスクの手技がなされることの多い小児科病棟や NICU での現状をもとに、医師の担う業務についてタスクシフティングの導入や、ICT を活用した研修プログラムの提案もなされました。

3. 杉本祥拓（藤枝市立総合病院教育研修センター）　臨床研修制度と医療安全
臨床研修制度においては、導入当初から行動目標として「安全管理」が定められています。一方、医療事故情報収集等事業においては、研修医や専攻医が医療事故の当事者となっている事例が少なくありません。藤枝市立総合病院の杉本先生からは、中心静脈確保や腰椎穿刺などの手技の実施機会を確保することと、医療安全を両立するための方策について議論がなされました。専攻医や研修医を対象としたアンケート調査が報告され、侵襲度の高い手技の習得状況や実施時期について、経験機会が減少によって若手医師の成長が阻害される懸念についても共有いただきました。シミュレータ教育や研修管理システムなどの可能性も期待されます。

4. 藤崎わかな（帝京大学医学部医学科）　医学生から見た医療安全の取り組み
世界的な COVID-19 の流行によって、新興感染症への対応として、幅広い対応が求められています。医学生が臨床実習を行う大学病院では、学生医と患者それぞれ、そして学生医と患者間の感染対策が行われています。帝京大学医学部医学科の藤崎さんからは、学生医の感染予防として行われている対策として、体調のモニタリング、防護資材の適正な使用、動線の管理、まん延時の実習機会の制限、自主学修や部活動の実施ルールの策定などが紹介されました。臨床実習において重視される患者さんとの対話の機会の確保のために、事前学修や ICT の活用など学修方法の工夫についても提案がなされました。

4 人の若手医師・学生からの発表に続いて、ご参加いただいた会場の皆さまと活発な議論が行われました。医療安全と医療の質向上に向けて、研修プログラムの改善・薬剤やデバイスの改良・コミュニケーション学修機会の確保・ICT やシミュレータ教育など、全国の若手・学生育成に関わる現場からのご意見ご提案をいただきました。今回の議論を踏まえて、若手・学生部会では引き続き次世代の医療を支える人材育成に向けた医療安全・教育研修のあり方について議論し、連携を深め、成果を発信していくこととしております。

編集後記

本号は、2022 年 6 月に静岡県浜松市で催された第 8 回学術集会の大磯義一郎代表総会長、辰元宗人・井手口直子両共同総会長にご報告をいただきました。久しぶりの現地開催、そして新体制のもとで初の会場開催とのことで、会場のあちらこちらで和やかなやり取りがなされていました。「Keep health workers safe to patients safe」“医療従事者を安全に保つことが、患者の安全を守る”をテーマとし、多職種による講演や発表がなされ、対面での議論や意見交換できる時間を共有できる貴重な機会でした。部会・活動報告では、財務委員会、若手・学生部会より、ご報告いただきました。

ニュースレターは、会員の皆様に発信させていただくとともに本会ウェブサイトで一般の方にも公開しております。講演会や研修会の開催告知などの情報発信ツールとしてご活用いただけます。広報委員会では、会員の皆様からの投稿、情報提供をお待ちしております。

2022 年 9 月発刊号担当 広報委員会 渡邊清高、道丸摩耶、百賢二